

伝統をまもるため、私たちができること。

～黒髪神社の流鏝馬(やぶさめ)神事～

平成27年には850周年を迎えた山内町黒髪神社の流鏝馬神事。その裏側には、神事を支える黒髪神社流鏝馬奉賛会の存在があります。会では、節目の年を記念してDVDを作成し、市内小中学校に配布。地域の伝統を知ってもらう活動をされています。今回はその黒髪神社の流鏝馬神事をご紹介します。

毎年10月29日に奉納される黒髪神社の流鏝馬神事は、黒髪山の大蛇退治伝説に由来します。

その昔、黒髪山に大蛇が棲みつきた村人を悩ませていました。そこで源為朝が、万寿姫をおとりに大蛇をおびき出し、弓矢で退治しました。この大蛇退治祈願成就のため、1165年から奉納されたのが黒髪神社の流鏝馬のはじまりと伝えられています。

派手に馬と射手が駆け抜ける様子が印象的な流鏝馬ですが、奉納にあたって多くの地域の方々の協力があるのをご存知でしょうか。一連の流鏝馬神事は、総

括責任者である注連元選出に始まり、材料となる合欵や椎の木を準備する木倒し、的作り・射手筆作り・注連元宅のしめ縄掛け・馬屋被い・馬場みせなど多くの儀式を経て、29日の流鏝馬奉納当日を迎えます。

昔から受け継がれるこれらの行事ですが、現在担い手の減少が進んでいるのが課題です。武雄市には黒髪だけでなく、武雄供日の流鏝馬行事、各町の浮立や荒踊など、後世に受け継ぐべき伝統行事・伝統芸能がたくさんあります。

華やかな衣装を着た人達だけでなく、裏方で多くの方が関わって伝統行事・伝統芸能は成立っています。

後世への伝統行事・伝統芸能の継承に若いあなたの力が求められています。まずは行事に足を運ぶ事から始めてみませんか？



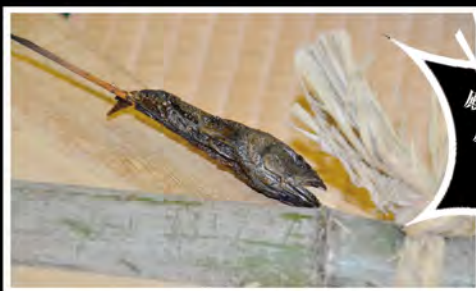
後ろ姿も美しい

武士が飛んでくる矢を防ぐ役割で用いた母衣(ほろ)をなびかせて走るのも黒髪神社の流鏝馬ならではの。



幸運を呼ぶ的!?

的はアタリとも読み、幸運があたると大切にされる。家に飾れば火災予防になると言われる。



殿喉らう魚(トノクラウオ)
殿喉魚(ドンクラウオ)
ドンコ魚!?

的の飾りとして使う魚は鎌倉幕府の使者に打ち首覚悟で出した魚が、意外にも美味しいと好評だったことから殿喉魚(ドンコウオ)と呼ばれるようになったとか。

知れば面白い、流鏝馬小話。